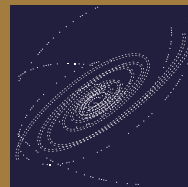


# EIWA UNIVERSITY 3

えいわ

ゆにばーす

2010.11.6



## 学院聖句

心を尽くし、精神を尽くし、  
力を尽くし、思いを尽くして、  
あなたの神である主を愛しなさい、  
また、隣人を自分のように愛しなさい。

(ルカによる福音書10章27節)



## 大学聖句

愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

(ガラテヤの信徒への手紙5章6節)

学院聖句／大学聖句／UI	1
学長からのあいさつ	2
現代コミュニケーション学科から	3
人間社会学科ニュース	4-5
らいぶらりーず・さろん (図書館報)	5
ぼらんていあ広場	6-7
宗教センターから	8

「学院聖句／大学聖句」を各校舎に掲出しました。入館のたびに聖句を確認し、自らの行動を律する糧としてほしいという願いを込めたものです。

## 4つのUI

- ① キリスト教精神に基づく人間教育
- ② 小規模ながら個性を持った大学
- ③ 地域社会に貢献する大学
- ④ 学問研究・教育の一体化

キリスト教精神に基づく「愛と奉仕」の実践を根幹とした人間性の陶冶に努める教育、これが建学の精神のもっとも簡潔な表現です。本学の前身である静岡英和女学院短期大学の初代学長松本卓夫は、建学の精神の具現化について次のようにまとめています。

①「学問研修に専心、精進する場であり、機会」であること、②「キリスト教主義の学園」であること、③「知識も、信仰も共に奉仕の行動として実践される」ものとなることを教育の理想とすること、④「日本の良き伝統を活かし日本の社会に奉仕するもの」であると共に、「今日の国際時代に自然に、聡明に、有効に処する」道を教える場であること。

松本はこれを「愛と奉仕」という言葉に凝縮して、スクール・モットーとしました。

## University Identity

SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



SHIZUOKA EIWA



静岡英和学院大学  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

静岡英和学院大学短期大学部  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

企画・編集 学報委員会

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

TEL 054-264-8872

FAX 054-263-4763

## 大学の勉強ということ

学長 武藤 元昭

入学式から半年が経過した。1年生諸君も大学生としての自覚を持ってきたことと思う。

大学進学率が史上最高となったと報じられている。喜ばしいことではあるが、一方で、大学の大衆化という問題も出てきている。大学は以前の大学とは違うという考え方である。それについて、少し考えてみたいと思う。

大学進学率がまだ低かった頃に、私は大学生となった。高校生から大学生になったという喜びは格別なものだった。高校では与えられた課題をこなすことが大事であった。しかし、大学では自ら課題を探し、それを教師の力を借りながら自ら解決しなければならなかった。それが大学生というものだと思った。

自分の大学生時代の授業を振り返ると、時間的にはかなり融通がきいたように思う。後に私の指導教授となる先生は、2年生相手の講義には休講の方が多かった。京都の大学の教員でありながら、東京の出版社との打合わせ等でしばしば東京へ出て行かれたからだということ、噂で聞いた。その休講を、自分の時間に有効に使えるということで、それなりに喜んだものであった。しかし、4年次の演習の際のその先生の厳しさは、その後の私の研究生生活を支配するものとなった。演習室は先生の隣の部屋であったが、時間前に必ず行って静かに先生が登場されるのを待つ。その間私語は一切交わさない。先生が登場されると、ゼミ生一同背筋をピンと伸ばしてお迎えする。ゼミの担当に当たると、事前に数週間の時間を用いて周到に発表の準備をする。今のようにパソコンで調べることはできないので、全て文献によって資料集めをしなければならない。緊張の中で、精一杯発表すると、「調べたからといって、何でも発表することはない。発表は氷山の頭の部分だけでよい。」と厳しい言葉が飛ぶ。身が縮む思いがしたが、これが大学の勉強というものなのだということは強く感じた。自分が教員になってから、先生には遠く及ばないが、方法だけはゼミの学生諸君に伝え

た。その方法を真摯に受けとめて、立派な研究者になったゼミ生がいる。教師冥利に尽きることである。

東京の大学に勤めて、さまざまな他の大学の非常勤講師になったが、1年だけ東京大学で授業をしたことがある。大学院としては母校であるが、大学としては母校ではないので、どう学生諸君と接したらよいものやら戸惑いを感じた。ともかく教室に行ったが、受講者名簿も確定せず、出席の取りようもない。私の方も出席を取る気もない。研究室の助手の方からは、授業をいつから始めていつ終わるかは先生のお考えで結構です、と言われた。自分のやり方で前期の最終日の授業を終えたら、1人の学生が「今日初めて授業に出たのですが、夏休みに何を読んでおいたらよいでしょうか」と聞いてきた。これには内心呆れたが、一方で、大学の勉強とはそうした面があるのだと、自らの学生時代を思い出して納得した。その時の授業を取っていた学生が、現在私の前任校で私の後任となっている。

本来、大学の授業というのは、出席日数や試験の方法など気にせず、真に自分の意思によって取り組むものだと思う。本学の学生諸君も、自らの強い探究心で課題を生み出し、それに取組んでもらいたいと、切に願う。





## 就職活動体験 座談会

現在就職活動に取り組んでいる皆さんには、大変困難な状況が続いています。企業は不況で社員の新規採用を減らし、財政難のために公務員の新規採用も減らされています。そのような中、7月23日に内定を獲得した学生の皆さんに集まっただき、就職活動の工夫や苦勞について話してもらう座談会を開きました。就活中の2年生の皆さん、またこの秋から就活に取り組む1年生の皆さん、よく読んでください。

**Q** 就職活動について振り返ってみて、まず、準備段階についてから、話してください。

**A** 1年生の10月に、少し茶色だった髪を黒く染めたのが就活の始まりです。それから、パソコンで企業のことを調べ始めました。

**B** 私も1年生の10月から活動を始めました。いつも不安で、あせっていました。

**C** 私も、その頃からですが、自分がどの企業に合っているのかわからなくて、ずいぶん悩みました。受けてもなかなか内定をもらえなくて、落ち込んでいました。

**D** 私も1年生の10月からですが、なかなか希望している企業の求人がありませんでした。そこで発想を変えて、就職したいと思うブライダル関連企業でアルバイトを始めました。今年の1月頃ですね。アルバイト先では、常に笑顔を絶やさないように、積極的に自分から行動するように努力しました。

**E** 私は11月頃からエントリーを始めました。アパレル業界志望でし



たが、面接のたびにファッションポイントを聞かれて、頭のとっぺんからつま先まで気を配らなくてはならず、本当に苦勞しました。

**Q** 面接での苦勞や、練習についてはどうですか。

**B** 試験前には企業の下調べをして、面接の特訓もしてもらいました。準備をしていたので、余り緊張しないで自己アピールもできました。

**A** 私も面接の練習をしたおかげで、笑顔で自己アピールできました。あと、グループ面接の練習もしました。

**C** 私ももちろん練習してから行きました。自己アピールでは、身振り手振りまで使って、明るく笑顔で答えました。何ととっても、明るい私をアピールできたのがよかったと思っています。

**F** 何を聞かれても明るく笑顔で、大きな声でハキハキと話すことを心がけました。圧迫面接ではいろいろなことを次々と聞かれるんですが、この会社にどうしても入社したいという熱い思いをはっきりと言うことが大切だと思います。

**Q** その他に、こんなこともあったとか、こんなこともしましたとかのエピソードはありますか。

**A** 内定をいただいた企業の製品のコンタクト・レンズを着用していました。それも大きなポイントになったようです。

**D** 私は、アルバイトをしている時の仕事ぶりを評価してもらえたようです。とてもうれしかったです。

**B** 私は、1年生の時に中国語を勉強していたので、中国語で自己紹介しました。それに資格を取ることに頑張っていたのも、評価されたようです。

内定者の意見をまとめると、次の3点がポイントです。

- ① 企業研究はしっかりと
- ② 面接はあらかじめ練習しておくこと
- ③ 明るく前向きな自分をアピールすること



# 人間社会学科ニュース

## 「人間社会総論」リレー講座

人間社会学科では、今年度から各教員がそれぞれの専門分野を1時間ずつ1年生に紹介する形式を「人間社会総論」(前期開講)という授業に取り入れました。共通テーマを設定し、同じテーマをそれぞれの分野から読み解くことで、講義を受ける1年生が学際性を感じられるというものです。また専門演習を選ぶ際のヒントになるなど、大変評判のよい授業内容となりました。今年度の共通テーマは「流動性」。例えば、「砂の女」(安部公房著)という小説を題材に「砂の流動性から『人間社会における定着と流動』を読み解く」(日本近代文学)、「観光活動や消費者の時代に伴う変化という『流動性』」、「認知心理学から見た『流動的認知』」など、「流動」という言葉もいろいろな専門分野から様々な見方ができます。

1年生も真剣に授業を聞き、後期から配属される基礎演習選びの参考にしたようでした。

## 2年生夏季フィールドワーク

人間社会学科では、今年度から2年前期に「世界の見方がカワプロジェクト」と題し、履修者全員にフィールドワーク(取材を通して調査する、研究対象とじかに触れ合う研究手法)を義務づけました。例えば博物館を見学する、店舗見学を行い売れ筋商品について従業員へインタビューを行うなど、自分が2年後期から選択する専門分野の研究手法について、フィールドワークを通して履修者が理解を深めたようです。

## 日本文化フィールドワーク (大和路研修)

専任講師の蔡です。このたび、大和路研修が無事終了したことをご報告いたします。

研修期日：9月8日(水)～9月10日(金)

研修地：吉野、飛鳥、奈良市内

参加者：16名(うち1年生12名、4年生4名。女子8名、男子8名)

研修経過：

〈9月8日〉 出発時、古郡先生が静岡駅まで見送りにいらっしゃいました。差し入れのお菓子を、みんなで車内でいただきました。13時半ごろ、台風9号の大雨と名古屋あたりですれ違って、予定通りに吉野に到着。



吉野金峯山寺にて。日本最大の秘仏・金剛蔵王権現、ここにあり！

荷物を宿に預け、金峯山寺と吉水神社を見学。60年に一度の蔵王権現のご開帳も拝観しました。



現存する日本最古のロープウェー、吉野ロープウェーに乗った！

帰りは2班に分け、加藤先生が疲れ気味の学生を12名連れて宿へ戻り、私が残りの学生とともに如意輪寺まで歩きました。夕食は宿でいただきました。

〈9月9日〉 朝7時45分に宿を出て飛鳥に向かいました。加藤先生のご決断でレンタサイクルを使って飛鳥を回ることになりました。お蔭で残った体力でなんとか長谷寺の長い登廊を登れました。

予定より少し早く奈良市内に入って、市内見学をかねて各自でお食事を済ませました。

〈9月10日〉 奈良での研修は班別で行動しました。午前9時半に一旦集合し、注意事項などを説明してから散開。

16名の学生を4グループに分け、出発前に立てた研修計画に従って研修を行いました。

そして、15時15分発の電車で京都を經由して帰途につきました。18時10分ごろ静岡駅で解散し、研修を終了しました。



奈良県立万葉文化館でセントくんに出会った！

## サマーキャンパス報告

専任講師の川島です。今年度から、高校生を対象とした大学を紹介する機会、「一日体験入学」を2回に増やし、「サマーキャンパス」と題するようになりました。人間社会学科では、今年度は「EIWA de Animedia」と題し、年間を通じて「アニメを各専門分野で分析する」模擬授業を、オープンキャンパス、サマーキャンパスにて行っております。オープンキャンパスでは、6月は映像文化から、9月は学習心理学と日本古典文学からアニメを分析する模擬授業を行っています。

7/25、第1回目のサマーキャンパスでは、永山先生と安福先生にお願いし、「アニメと認知心理学」「アニメと観光学」という模擬授業を行いました。「アニメと認知心理学」では、なぜ遠くに小さく見える東静岡駅のガンダムから大体の大きさを予測できるのかについて、知覚と脳の関係から説明がなされました。次にアニメ顔の今昔、CG顔やアニメ顔に対する印象についてなど、顔とアニメについての講義が行われました。「アニメと観光学」では、アニメをテーマとしたツーリズムが人気を集めていること、アニメ・ツーリズムとして人気が高い地域が紹介されました。そして、学生による「ホビーのまち静岡」の紹介を交え、観光資源としてのホビーにつ

いて触れ、静岡市の地域の魅力についての講義が行われました。

8/29、第2回目のサマーキャンパスでは、東静岡駅に近接して7/24から公開されている「ガンダム立像」にちなみ、ガンダムのアニメを製作している株式会社サンライズの内田健二社長をお招きした学科特別講演会、教員がそれぞれの専門からアニメを分析するパネルディスカッションを行いました。講演会では、商業アニメーション業界の変遷、アニメーション制作の経験、アニメを作るという仕事上の醍醐味などがテーマとなりました。パネルディスカッションでは、「映像とアニメ」「アニメと認知心理学」「アニメと学習心理学」「アニメと文学」「アニメと観光」という観点からアニメが分析されました。その後、「実社会ではどう役立つ?」「人間社会学科ではこの講演会の続きをどう学べるのか?」について、日比先生から解説がありました。

右のポスターはサマーキャンパスの宣伝媒体です。年間を通したシリーズということもあり、中にはオープンキャンパス、サマーキャンパスに5回も参加してくれる受験生がいました。



# らいぶらりーず・さろん No.3

## ご存知ですか

### A3のコピーがとれるようになりました!

これまで図書館のコピー機でコピー印刷できたのは、A4とB4の2種類だけでした。新聞記事や大型本をコピーする場合、A4・B4だと大きさが足らず、困った経験をしたこともあるのではないかと思います。A3のコピーをとれるようにしてほしいという要望も、図書館に寄せられるようになりました。そこで利用者の皆さんの声にお応えして、A3もとれるようにしました。料



金は1枚20円です。



### 視聴覚コーナーにDVDプレーヤーが増えました!

図書館では、DVD資料の増加に伴い、視聴覚コーナーにDVDを再生することのできる機器が、新たに2台仲間入りしました。セミナー室のDVDプレーヤーを含めると7台になります。ぜひご利用ください。なお、DVDプレーヤーが増えたことで、視聴覚コーナーの各ブースの機器配置が少し変わりました。使い方がわからない場合は、カウンターまで声をかけてください。





英和生のボランティア活動を応援するページ

静岡英和学院大学ボランティアセンター

# ぼらんていあ広場

## 前期の活動より

ボランティアセンター（ボラセン）とボラセン学生スタッフは、英和のボランティア活動を充実させるため様々な企画に取り組んでいます。今年はスタッフが16人に増えパワーアップ！皆さんに関心を持って参加いただけるよう奮闘中です！

### ボランティア募集合同説明会

新入生に向けてグループ紹介と参加の呼びかけを行いました！



### ぼらんていあ・ランチセミナー

ボランティア団体や施設などで活躍している卒業生から、活動についてお話しをお聞きしました。



### 国際協力キャンペーン

カンボジアに井戸を贈るための募金活動を開始しました！またカンボジアに関心をもってもらえるよう写真展を開催。募金は後期も続けます！



### 夏のボランティア相談会

夏のボランティア情報を提供し、申込み&相談を受け付けました。



### ECO活動

リサイクル活動でジュース類の紙パック回収を開始！回収BOXに洗って入れてもらえるようにするのが課題です。



ボラセンの活動を支える学生スタッフです。どうぞよろしくお願ひ致します！



## ボランティア委員のご紹介

ボランティアセンターの運営は、各学科から選出された教員とボラセン職員で構成するボランティア委員会が担っています。今年度の委員を務める教職員をご紹介します！  
①担当科目、②実践しているECOな取り組みやボランティア活動、③皆さんへのメッセージ

### ボランティア委員長

木下ゆり先生（食物学科）



- ①臨床栄養学、栄養指導実習
- ②書類の紙の裏の再利用。電気をこまめに消す。
- ③学生の時、エイズの問題は私たちにとってとても身近だと感じて、啓発活動や患者さんを支援する活動を今も続けています。

活動を通して様々な人たちと出会い、いろいろと感じて学ぶことが、ボランティアの醍醐味です。

菊池みち子先生（現代コミュニケーション学科）



- ①音楽、ドイツ語、ゼミ
- ②マイ箸・マイバッグの携帯、節電など
- ③ボランティアをたいへんなことだと思いませんか？ そんなことはなく気軽に行えることです。

一石二鳥にも三鳥にもなりますので、ぜひ何かやってみて下さい。

伊勢田奈緒先生（人間社会学科）



- ①チャペル、人間学基礎、キリスト教学など
- ②教会へのバザー
- ③「愛の実践を伴う信仰こそ大切です」これは大学の聖句です。大学生活4年間でボランティアという言葉を使わ

なくても自然にあなたの隣人を大切にする人になって下さいね。心の美しさで行いの美しさと一緒に追い求めていきましょう！

白山靖彦先生（地域福祉学科）



- ①障害者福祉論、医療福祉論など
- ②ペットボトルキャップの収集。アフリカの子どもたちにワクチンの注射針を送る運動の一環です。
- ③人の役に立つということは、自分の存在を証明することです。ボランティアを通じて自己実現し、本当の自分を捜しましょう。全力でお手伝いします！

ボランティアを通じて自己実現し、本当の自分を捜しましょう。全力でお手伝いします！

クレイナー先生（人間社会学科）



- ①Communicative English Advanced, 英語リスニング & スピーキング
- ②Always clean up after yourself.
- ③Think of how your actions will affect other people.

原川由美子（ボランティアセンター）

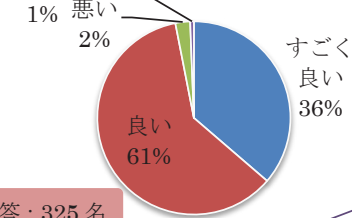


- ①ボラセンコーディネーター
- ②節電、リサイクル、マイバッグ、マイボトルなど
- ③貴重な学生生活は、長いようで短く

あっという間に過ぎてしまいます。今だからできるいろんな経験をして、たくさんの財産を作りましょう！「何かやってみよう！」と思ったら、ぜひボラセンにお出で下さい！！

# 今年の一年生はボランティア活動をこう考えている!

「ボランティア」に対するイメージは?

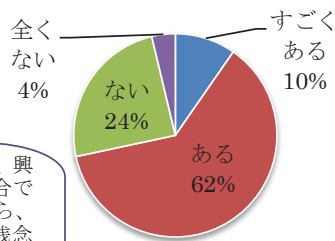


回答: 325名

ボランティアに対するイメージの持ち方も、興味の度合いも、去年の一年生とほぼ同じ割合でした。よいイメージを持ち興味も持ちながら、参加に結びつかない人が多いのがとても残念です。参加を希望する人の割合は、若干増加。その結果が前期の活動にも現れました! たくさんの学生が実際に参加してくれ嬉しく思います。

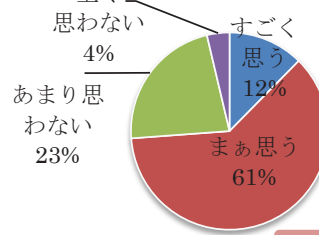
4/7~9に山中湖で行われた新入生ステューデント・リトリートで、ボランティアに関するアンケートを実施しました。毎年実施しているこのアンケート回答は、その年により微妙な変化があります。今年の一年生はボランティアをどう捉え、どう考えているのでしょうか? アンケートの中から3つの項目について、1年生全体の集計結果をご紹介します。そこから皆さんはどんなことを感じるでしょうか?

ボランティアに興味がありますか?



回答: 321名

これからボランティアに参加したいと思いますか?



回答: 356名

## グループの活動より

### 絵本を贈る会

では、昨年からブルンジ難民に衣類を贈る活動に取り組んでいます。今年は5月に実施し、ダブル9箱分の物資(427点の衣類や石けんなど)と送料のカンパ27,980円をお送りすることができました。皆様のご協力、ありがとうございます。また夏休みには、絵本を贈るための資金作りとして施設の納涼祭に模擬店を出店。できるだけたくさんの本を贈れるよう、11月の学園祭まで資金作りを行います!



### グリーンボランティア

は、学内の緑化に取り組み、水やりなどお花の手入れを熱心に行っています! 今年は種からお花を育て、見事に咲かせることができました。



### ぴーすくる

は、障がいのある子どもたちと余暇活動を楽しむグループです。2~3ヶ月に1回程度、様々な企画を立て実施しており、5月には「みんなで遊ぼう!」の呼びかけでダンス&サッカーを楽しみました。7月には静岡科学館「るくる」に出掛け、9月にはBBQを実施。他大学の学生さんたちと一緒に毎回熱心に準備を進め、充実した活動を展開中です!



### カラフル☆パンチ

は、音楽やパネルシアターなどを使って、参加される方が楽しく過ごせる公演活動を行っています。保育園やコーヒーショップの店内、「来・て・こ」などで子どもたちを楽しませてくれました。10月には高齢者施設を訪問する予定です。



この他、**ファイト**は障がい児の余暇支援、**ミリユー**は学内の古紙リサイクル、など様々な活動が続けられています。一緒に活動してみたい方、何かやってみたい方は、ボラセンまでどうぞ!

施設や団体のイベントや個別活動などにも多くの学生が参加してくれました!





## 宗教センターから

宗教主任 伊勢田奈緒

【リトリートの思い出】(2010年4月7日～9日)

毎年、新一年生は入学直後にスチューデントリトリートに行きますが、特に今年は昨年夏から計画を立て始め、宿泊先も従来の山中湖から長野県の八子ヶ峰に変更しました。また、従来のプログラムを全面的に見直し、引率者には教員と共に各学科から二名ずつ上級生に加わってもらうことにしました。一泊二日という短い期間ですが、その間に建学の精神であるキリスト教における「愛と奉仕」について学び、他方学生同士の友達作り、教員との出会い、上級生との交流などができ、これからの二年間ないし四年間の大学生活を自分なりにイメージできたのではないかと思います。しかし、4月というのに雪景色のためハイキングもなかなかハードのものとなったり、バスの乗車時間が結構長かったり、昨年的大型バス3台から今年は6台に変更しなければならなかったりと思いがけないこともありました。それでも春休みも大学へ来てリトリートのために色々準備をしてくれた愛すべき上級生たち、いつもこちらの要望に誠実に応えテキパキと動いてくれたJTBの方、意見を出し合ってリトリートを良いものにしようと務めたリトリート委員の教員や学生と優しく関わった引率教員、また温かなもてなしをしてくださった八子ヶ峰ホテルのスタッフの方々等、たくさんの愛で満ちたリトリートは、きっと一年生一人一人にとって、良き思い出になったことでしょう。そしてまた静岡英和学院大学の学生生活の良きスタートとなったことと思います。

【チャペルから】

大学では週の半ばの水曜日午前10時半から新館五階の講堂において、主として一年生と教員が共に礼拝を守っていますが、今年度最初の礼拝において、赤・青・黄色・緑に色付けしたゆで卵にカードを添えてラッピングしたイースターエッグを全員に配布しました。キリスト教の授業前だったので一年生たちは、「イースターとはイエス・キリストの復活を祝う日」ということはわからなかったと思います。しかし、キリスト教

の雰囲気をはんの少し体験できたのではないかと…期待しています。また前期には2回学生礼拝を行い、5月はリトリートでの感想、6月には大学へ入ってから考えたことを数名の学生に語ってもらいました。また、6月には中国地震の献金のお願い(留学生たちによるポスター作り、献金の呼びかけ)を礼拝後に行い、集めた献金は日本赤十字へ留学生と共に持参しました。自分と静かに向き合い祈り、賛美歌を歌い、聖書の言葉に耳を傾ける毎週の礼拝は目には見えないけれども学生たちの心を豊かにするものであると思います。

【お知らせコーナー】

\*11月22日、24日、25日、27日、静岡英和女学院創立記念(11月26日)123年を記念して、『英和女学院の歩み』と題した写真展を開催します。中学・高校・短大・大学を含む懐かしい写真を100点展示し、また大学・短大のアルバムも閲覧できます。写真収集には大学の写真部「PHOTOキャラメル」が協力(夏休み大奮闘)してくれました。また11月24日(水)には宮城まり子氏とねむの木学園のこどもたちが来校します。(上記の件の問い合わせ・申し込みは、電話261-9201 FAX263-4763(伊勢田)まで)

\*「クリスマス・プロジェクト2010」を発足させ、学生と教職員が一緒になって静岡英和学院大学のクリスマスを祝おうと思っています。企画としてはクリスマスカードコンテスト、クリスマスイルミネーション、クリスマス礼拝、キャンドルサービス、クリスマス会、クリスマス献金などを考えております。